

令和6年9月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時 令和6年9月26日(木) 午前10時00分

場 所 市庁本館3階 議会第3委員会室

出席者	教育長	齋藤	信哉
	教育委員	小瀬川	喜井
	教育委員	福井	武久
	教育委員	小澤	直子

事務局出席職員	教育部長	八木田	満彦
	教育部次長兼教育総務課長	松橋	広美
	教育部次長	寺井	健司
	博物館長	小保内	裕之
	学校教育課長	沼上	進一
	教育指導課長	三津谷	喜美典
	社会教育課長	高橋	宣子
	是川縄文館副館長	間	砂織
	総合教育センター所長	佐藤	公一
	こども支援センター所長	田端	修文
	図書館長	磯嶋	奈都子
	学校教育課参事	角岸	功幸
	学校教育課参事	春日	貴子

開 会

(齋藤教育長)

定刻となりましたので、令和6年9月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、小澤委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

主な会議・行事等

(齋藤教育長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

これより、本日提出されております議案を審議します。

はじめに、議案第47号「八戸市総合教育センター運営協議会委員の委嘱について」事務局から説明をお願いします。

議案第47号 八戸市総合教育センター運営協議会委員の委嘱について

(佐藤総合教育センター所長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

〔質疑なし〕

それでは、議案第47号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

御異議がありませんので、議案第47号を原案のとおり決定いたします。

次に、議案第48号「八戸市指定管理者選定委員会委員の委嘱について」事務局から説明をお願いします。

議案第48号 八戸市指定管理者選定委員会委員の委嘱について

(磯嶋図書館長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

〔質疑なし〕

それでは、議案第48号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

(齋藤教育長)

御異議がありませんので、議案第 48 号を原案のとおり決定いたします。

以上で、議案の審議は終わりました。

次に報告事項にまいります。

はじめに、「令和 6 年 9 月八戸市議会定例会 一般質問について」は、事前に資料が配布されておりますので、委員の皆さんから質問がありましたら、お願いします。

【令和 6 年 9 月八戸市議会定例会 一般質問について】

(小瀬川委員)

感想を申し上げたいと思います。まず、2、3 ページ目の「時間外自動音声対応について」でございます。こちらの答弁内容を見ますと、教職員の約 97% が肯定的な回答をしていたほか、保護者の約 90% から「困ったことはなかった」という回答をいただいております、実施前に課題として挙げられていた混乱が見られなかったという内容であったため、大変安心いたしました。3 ページ目にありますとおり、教職員の負担軽減につながるものだと考えており、来年 1 月からの実施に向けて順調に準備が進んでいるのではないかと思います。

教職員の負担軽減に関しては、これからも様々な対策を講じていかなければならないと思います。9 月は 3 連休が 2 度ほどありましたが、学校の近くを偶然通りかかったときに、3 連休の最終日等でも夜に学校の電気が点いている様子を見かけました。やはり学校というのは公的な場所ですので、地域の方々は「何か起きたのか、先生方がまだ仕事されているのか」という心配の念を抱いてしまいます。学校はもちろん先生の職場でもあります、先生方の心と体の健康面や家庭を持つ先生方の家庭人としての役割も考慮すると、休業日の出勤について、ある程度の基本線を設けてお示しするということが今後考えていただきたいと思っています。

(齋藤教育長)

「時間外自動音声対応について」に限らず、やはり学校の働き方改革はこれから早急に取り組まなければならない課題であり、現在取り組んでいる最中でもございますので、小瀬川委員からいただいた御提案を含めてこれからしっかりと進めていかなければならないと考えています。学校の働き方改革を実現していくためには、学校だけではなく、保護者や地域の皆様からの御理解と御協力も必要であると考えているので、可能な限り情報を発信・共有しながら進めていくことを心掛けていきたいと思っています。当市の教員の時間外勤務は、県や全国の平均を下回ってはいますけれども、まだまだ取り組まなければならない課題は山積していると認識していますので、引き続き進めていきたいと思っています。

(小瀬川委員)

もう 1 点よろしいでしょうか。22 ページの「1 人 1 台端末等の活用による SOS の早期把握について」感想を申し上げたいと思います。8 月末にさいたま市へ視察研修に行った際に、さいたま市でも、心の小さな SOS を見逃さないようにすることを目的として、「おはよう・あすなろメーター」という機能を含むスクールダッシュボードの活用を進めていました。この答弁内容にありますとおり、「アンケートフォームを

活用した健康観察」や、「1人1台端末を活用したSOSの可視化について」は、全国的にも進んでいるのだらうと思いつながら、この答弁を読ませていただきました。ただし、1つのツールとして1人1台端末を活用した取組ももちろんありますが、現場の先生方が肌で感じる子どもたちの異変等もあると思います。地域の方々が以前お話されていてすごく心に残っていることがあるのですが、「朝に自分たちが歩道に立っているのは、安全指導のためだけではなく、子どもたちの日々の変化を見ている。」とおっしゃっていました。先ほど教育長が「地域の方々や保護者と出来る限り共有して」とおっしゃっていましたが、地域の方々を含めて、いろいろな角度から子どもたちを見守っていかなければいけないと答弁内容を読んで感じました。

(佐藤総合教育センター所長)

まず、さいたま市の情報等について御紹介いただきありがとうございます。

児童生徒がSOSを発信できる場については、現在子どもたちが持っている1人1台端末の中にもその機能が含まれています。「悩みを相談できる窓口」というポータルサイトがありまして、クリックすることで、AIとチャットによる対話方式で相談していきながら、最後に相談窓口の案内が出てくるという機能を導入しております。ただし、小瀬川委員がお話したように、直接人と人とが対面しながら子どもたちの状況を察知していくことは大事だと思いますので、コミュニティ・スクールや職員間の情報共有を通じて、子どもたちの状況を見守りながら、SOSを察知していければと思っています。

(齋藤教育長)

今の世の中、デジタル化が進んでいますが、そればかりに頼らずに基本は対面で話を聞き、相談に乗ることが大事だと考えています。現在導入している保護者連絡用アプリは、保護者の負担軽減を図るという目的で導入したわけでありすけれども、学校と情報を共有する際や今後について検討する際には、やはり対面で話をしていくことが基本になると思います。デジタル化と対面形式の両方を活用しながら、子どもたちのために取り組んでいければと思っています。

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

(福井委員)

9ページについて、「さわやか八戸グッジョブ・ウィーク推進事業」は廃止されていますが、「広域的体験学習支援事業」に多くの中学校が参加する予定であるということは、非常に喜ばしいことではないかと思っています。引き続き進めていただきたいと思います。

先日、デーリー東北のこだま欄に、市内の女子高生だと思つのですが、「職場体験に参加して八戸市内にこんな企業があるのかと感動した」という文面が掲載されていて、やはり知られていないのかとつくづく思いました。先月末に、縁あって市内の北インターの工場を見学する機会があったのですが、実際に工場の中で、食堂や作っている製品、働いている人たちを直接見たときに、私も知らなかったことが多くあり、非常に勉強になりました。そういった勉強をこの事業を通してぜひ進めていただきたいと思います。

また、子どもたちに教えている先生方も八戸市の企業について知らないのではないかと私は思いますので、先生方の研修の機会も設けて、先生方が知識を深めることによって、それを子どもたちに伝えるような

形式にすればもっと良くなると思います。現在、若者も地元に残さなければいけないという話もございますので、地域の魅力を発信する意味でも、生徒だけではなく先生も含めて、八戸市の企業がアピールする機会を設けていただければありがたいと思っております。

(三津谷教育指導課長)

キャリア教育については、答弁にもありましたとおり、いろいろな機会を通じて子どもたち自身が職場を見て歩く、あるいは出前授業で職場の様子を知るという内容になっております。また、NPO法人などを活用し、コーディネートを通じて職場体験をしていく取組も実施しております。

そのほか先生方の研修についても御意見いただきありがとうございます。今後も子どもたちと先生方が、一緒に職場体験を見学する機会が毎年積み重なっていくと思いますので、本事業を通じて子どもたちのキャリア教育を推進していきたいと考えております。また、先生方の研修について、校内研修の一般研修等でも対応可能かと思っておりますので、機会があれば今後お話しできればと考えております。

(齋藤教育長)

補足させていただきますが、現在、校外に出て社会科見学等を実施するときが一番ポイントになってくるのは、バス代が高騰しているためその費用の補助が必要だということです。幸い、当市では「広域的体験学習支援事業」をこれまで小学校を対象に実施していたのですが、令和4年度から対象を中学校まで拡大し、バス代を補助することとしております。それが学校からも好評でありまして、積極的に活用されておりましたので、さらなるキャリア教育の充実ということで引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

(小澤委員)

22 ページの「1人1台端末等の活用によるSOSの早期把握について」、私からも1つ質問したいと思います。現在取り組んでいる「悩みを相談できる窓口」や「アンケートフォームを活用した健康観察等」は、不登校につなげないための対策として非常に有効であると思っています。やはり対面で話ができれば一番良いのですが、今の世代は、なかなか対面ではうまく思いを伝えられないのだけれども、こういったツールを使ってつぶやくことは得意な世代であるかと思います。したがって、そういった思いを表示できるツールは非常に有効だと思いますが、既に不登校になってしまった子どもに対しても使えるツールであるのかどうかを教えていただきたいです。

(佐藤総合教育センター所長)

先ほども少しお話させていただきましたが、「悩みを相談できる窓口」というポータルサイトがあり、クリックすると端末に表示されます。それは不登校傾向の子どもでも、1人1台端末を自宅に持ち帰っておりますので、自宅で相談等の活用をしていくことは可能になっております。

また、「アンケートフォームを活用した健康観察等」について、私が以前勤めていた学校の保健室の養護教諭が情報を打ち込んで共有していたほか、「Classroom」という機能を活用し、オンライン形式で顔を出して対話もしているということを把握していましたので、学校現場ではいろいろな方法で工夫しながら実施

している状況だと把握しております。

(八木田教育部長)

私から補足させていただいてもよろしいでしょうか。

この答弁を作る際に、「悩みを相談できる窓口」と「心の健康観察システム」はどのようなものなのかと伺いました。どちらも同じ端末で操作するのですが、「悩みを相談できる窓口」は子どもが何かあったときに発信者になるので、特に悩みのない子どもはほとんど使わない機能と聞いています。一方、「心の健康観察システム」は、学校ごとに異なるかもしれませんが、毎朝、学校の先生が点呼を取るだけではなく、健康状態を聞き取りにいくということで、つまり子どもたちは受信者になるイメージです。個人的に何かあったときは前者であり、聞かれたことに答えるのが後者であり、工夫して実施していると理解しました。佐藤総合教育センター所長からもお話がありましたが、完全ではないのですが、1人1台端末は学校だけではなく自宅にも持ち帰ることができますので、登校しなくても遠隔でも操作できるシステムと伺っています。

(齋藤教育長)

子どもが発信できる場所をつくり、また先生方が受信した様々な情報を全員で共有しながら、いろいろな視点で子どもを見ていくという取組が、不登校傾向の早期予防にもつながっていくだろうし、いじめや家庭での虐待等の対策にもつながっていくのではないかと思います。これからまだまだやらなければならないことはありますので、引き続き取り組んでまいります。

(齋藤教育長)

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

〔質疑なし〕

次に「秋季企画展『合掌土偶 国宝指定 15 周年記念-合掌土偶ができたころ』について」事務局からの説明をお願いします。

【秋季企画展『合掌土偶 国宝指定 15 周年記念-合掌土偶ができたころ』について】

(間是川縄文館副館長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

〔質疑なし〕

次に「八戸市立図書館 150 周年事業について」事務局からの説明をお願いします。

【八戸市立図書館 150 周年事業について】

(磯嶋図書館長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

(小瀬川委員)

図書館の150周年記念事業を非常に楽しみにしておりました。特に期待しているのは、(5)番の「150周年パネル展」です。私の記憶で恐縮ですが、図書館が更上閣にあったときの記憶があります。今は個人情報の保護があるので廃止されましたが、当時は本を手にとるとカードが入っていて、自分が借りた本のカードを見ると、ずっと借りられていなかったとか、一方ですごく頻繁に借りられていたということが分かるようになっていました。当時、自分はまだ幼かったのですが、カードに書いてある名前の印象で、すごく高齢の方が借りているのだろうと、勝手に想像を膨らませるような体験や思い出も図書館にございます。今回、150周年記念誌の発行と共にパネル展で、今までの歴史と自分の記憶と改めてすり合わせたいと楽しみにしております。

また、100周年記念誌も図書館に伺えば見ることができるのかと思いました。そのほか、うみねこが集まって本になるイメージで作られているクリアファイル等は、実際に使ってみたくなるような品物で大変感激しております。

(磯嶋図書館長)

100周年記念誌については、図書館に貸出用として所蔵しておりますので、ぜひお読みいただければと思いますが、かなり厚い上に、写真や絵がほぼなく文章がずっと年代ごとに記載されているものとなっています。昔の図書館日誌などを基本資料にして作成している資料であるため、とても細かいことが書かれているのでおもしろいのですが、写真とかは残念ながら堅いイメージです。内容は、今日何があつてこういう人が来たというようなすごく読んでいておもしろい、その時代を反映しているというのが見えると思います。八戸コーナーに一冊置いてありますので、ぜひ借りていただければと思います。

パネル展のほうも、更上閣にあった当時の写真や、それ以前の建物の写真から現代の写真までそろって見る事の出来るパネルになっておりますので、10月1日から一階のカウンターのところで開催しますので、ぜひ御覧いただければと思います。

(小瀬川委員)

ホームページ等を拝見すると、江戸時代なのか明治時代なのかその時代のものが紹介されていたりするのですが、要望があれば、150周年パネル展等で飾られたものをホームページでも紹介する機会があるとよいと思います。

(磯嶋図書館長)

ホームページには、もの自体を公表するというのは考えておりませんでしたので、帰りまして検討させていただきます。

(齋藤教育長)

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

〔質疑なし〕

次に「秋季特別展『境界線上の彼女たち－ねね・鶴姫・南部麻－』について」事務局からの説明をお願いします。

【秋季特別展『境界線上の彼女たち－ねね・鶴姫・南部麻－』について】

(小保内博物館長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

〔質疑なし〕

事務局からは以上のようなようです。

それでは最後に「その他」ですが、委員の皆様方から何かございますか。

〔なし〕

閉 会

これをもちまして令和6年9月教育委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午前10時50分閉会)